

◎景気ウォッチャー調査[2020年10月]

2020年10月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断DI(合計)は、前月を4.7ポイント上回る54.3となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「Go To Travelキャンペーンの効果で予約数が回復してきている。」(都市型ホテル)、「大きなイベントは実施していないが、来客数が徐々に増加している。」(乗用車販売店)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.0ポイント上回る54.2となった。

企業動向関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「生産量の減少から雇用調整を実施していたが、注文量の回復から休業総日数が減少している。生産量自体も徐々にではあるが回復している。」(窯業・土石製品製造業)、「電子材料関連や自動車関連の受注は徐々に回復しつつある。」(非鉄金属製造業)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.0ポイント上回る53.7となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新規求人数は新型コロナウイルス第2波発生時の最悪期を脱した状況である。」(人材派遣会社)、「現時点では年末に向けての求人が増加している。」(求人情報誌製作会社)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.9ポイント上回る55.9となった。

	10月	9月	前月差
合計	54.3	49.6	4.7
家計動向関連	54.2	49.2	5.0
企業動向関連	53.7	50.7	3.0
雇用関連(参考値)	55.9	50.0	5.9

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断DI(合計)は、前月を2.1ポイント上回る50.6となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「飲食店や近隣の商業施設の業況が徐々に回復してきているため、今後景気は良くなる。」(スーパー)、「Go To Travelキャンペーンに加え、Go To Eatキャンペーンの効果が期待されるため、今後景気はやや良くなる。」(テーマパーク)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.0ポイント上回る51.5となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「受注は現状と同水準で推移する見込みである。1月から雇用調整助成金の特例措置が段階的に縮減される見通しであるため、厳しい状況に拍車が掛かる。」(金属製品製造業)、「受注量や販売量の動きから考えると景気は悪くなる。」(一般機械器具製造業)等の理由から、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.9ポイント下回る47.1となった。

雇用関連は、「年末や年明け後に事業縮小や閉店を視野に入れている企業や店があるという情報があるため、今後景気はやや悪くなる。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を1.4ポイント下回る51.5となった。

	10月	9月	前月差
合計	50.6	48.5	2.1
家計動向関連	51.5	47.5	4.0
企業動向関連	47.1	50.0	-2.9
雇用関連(参考値)	51.5	52.9	-1.4